

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

世界が広がった、つながった 2 年間



宮城県栗原市産業経済部産業戦略課 高橋 千穂

クレアでの勤務から、8年が過ぎました。当時、派遣元の宮城県栗原市は平成の大合併から1年がたったばかり。しかも、10町村の合併だったこともあり、自分の出身自治体以外についてはよくわからないままでした。同じように赴任した仲間たちが、日本を代表する地元の「何か」を語っているのに比べ、自分の言葉で「栗原市」を語れなかったことをもどかしく思い、派遣元の情報収集をできるだけ怠らないようにしていました。

海外で生活すること

プライベートでの海外渡航の経験はありましたが、仕事、ましてや2年という長期にわたる赴任は、当然初めての体験です。赴任先のシドニーでは、目に映る景色すべてが新鮮で、何でも楽しもうという気持ちを常に持って生活していました。

業務では、日本とオーストラリア、ニュージーランドの姉妹都市関連の業務や、両国の姉妹都市協会との交流事業を中心に担当していました。帰国後も姉妹都市協会の役員から「千穂は来ていないのか?」と言われることがある、という話を所長や後任職員から聞き、うれしく思いました。

海外事務所2年目のインターンシップ事業では、オーストラリアで初めて稲作が行われたスワンヒル市で受け入れをしていただきました。栗原市と似た環境の田舎まちで、ホームステイをしながら過ごした1週間は、とても貴重でよく思い出します。

当時は大変だと思ったことも、振り返ればどれも自分の糧となっており、笑って話せることが幸せです。

帰国後の業務

帰国後、海外との関わりとしては、当時、スウェーデンに本社がある市内企業の協力を得て、高校生の海外派遣事業をゼロから立ち上げ定着することができました。この派遣事業も今年度7回目を迎え、私自身もこれまで4回引率を経験し、参加した生徒たちとは現在も交

流が続いています。

東日本大震災の発災時には、イスラエル国防軍の医療チームの受け入れや駐日大使との会談で簡易通訳や書記を担当するなど、貴重な経験を積むことができました。

現在は、2020年の東京オリンピックへ向け、オーストラリアのスポーツチームとの交渉を任されており、責任の重さを感じています。本来の業務ではありませんが、海外での経験を活かし、さまざまな事業において頼りにされている実感があり、非常にやりがいを感じています。

つながるコミュニティ

クレア勤務により、多くの自治体関係者とのつながりの重要性に気づくことができたおかげで、現在は、東北まちづくりオフサイトミーティングや、みやぎ自治体職員ネットワークなど、地域コミュニティの活動にも積極的に参加しています。また、シドニー事務所の仲間とは、年に1回程度「シドニー会」と称して、近況報告を兼ねて、お互いの地元を訪問しています。

栗原市からは、私の赴任後2名の職員が後任としてクレアに勤務しています。クレアでの経験が、職員にとって有用であると派遣元に認められていると自負しています。

プロフィール

1995年4月：築館町入庁
2005年4月：栗原市内10町村合併により栗原市誕生
2006年4月～2007年3月：東京本部交流情報部国際情報課 主査
2007年4月～2009年3月：シドニー事務所 所長補佐
帰国後、市民協働課、放射能対策室、定住促進室、成長戦略室勤務を経て、現職。



ホーンズビー市のカウンシルビジットにて



クレアフォーラムと共催したNZ姉妹都市協会総会でスタッフのJETAAと